

三菱UFJフィナンシャル・グループ

MUFG通信

第7期第1四半期(平成23年4月1日~平成23年6月30日)



Quality for You



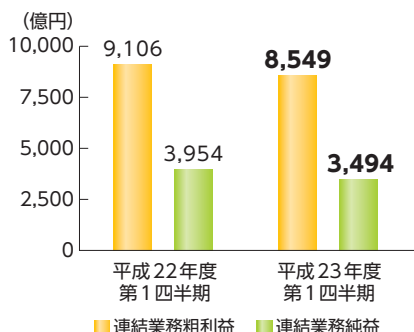
平成23年度第1四半期の業績

✓ 決算のポイント

- 連結第1四半期純利益(平成23年4月～6月)は、与信関係費用の改善や保有していたモルガン・スタンレーの優先株式を普通株式へ転換したことに伴う利益などから、前年同期比3,342億円増益の5,005億円
- 貸出金は、海外貸出が増加したものの、国内法人貸出が減少したことなどから、全体では平成23年3月末比0.5兆円減少。預金は、個人預金が続ぎ増加した一方、国内法人預金が減少したことなどから、全体では平成23年3月末比1.7兆円減少
- 連結自己資本比率は、平成23年3月末比0.36ポイント低下の14.53%

損益の状況

連結業務粗利益・連結業務純益

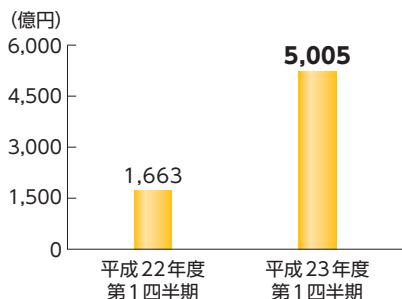


連結業務粗利益は、消費者金融子会社での資金利益や証券子会社での市場取引収益の減少を主因に、前年同期比556億円減少し、8,549億円となりました。営業費は、引き続きグループを挙げて経費削減に取り組んだ結果、前年同期比96億円減少の5,055億円となりました。この結果、**連結業務純益**は前年同期比460億円減少の3,494億円となりました。

与信関係費用総額は、海外子会社のユニオンバンクなどで改善したことから、前年同期比351億円減少の189億円となりました。また、保有していたモルガン・スタンレーの優先株式を普通株式に転換したことに伴う利益約2,900億円を計上した結果、臨時損益全体では前年同期比3,750億円改善し2,389億円の利益となりました。

以上の結果、連結経常利益は前年同期比3,021億円増益の6,012億円、**連結四半期純利益**は同3,342億円増益の5,005億円となりました。

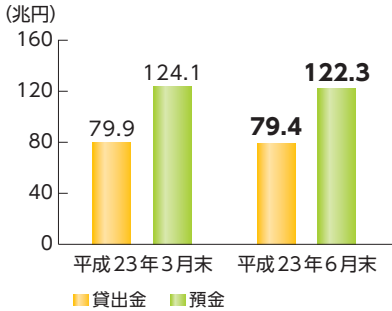
連結四半期純利益



(注) 業績説明に使用している計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。従って、表中のある項目の計数と他の項目を加減計算した結果とが一致しないことや、説明文中の増減数値とグラフ・表中の計数を加減計算した結果とが一致しないことがあります。

貸出金・預金の状況

貸出金・預金

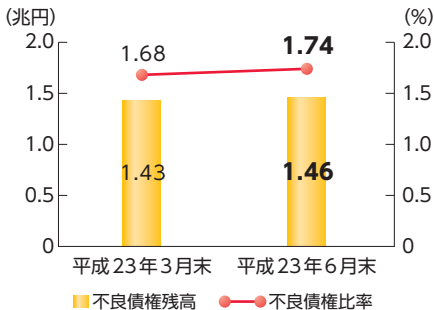


貸出金は、海外貸出が増加した一方、国内法人貸出が減少したことなどから、平成23年3月末比0.5兆円減少の79.4兆円となりました。

預金は、個人預金が引き続き増加しましたが、国内法人預金が減少したことを主因に、平成23年3月末比1.7兆円減少の122.3兆円となりました。

不良債権残高・比率の状況

不良債権残高・比率

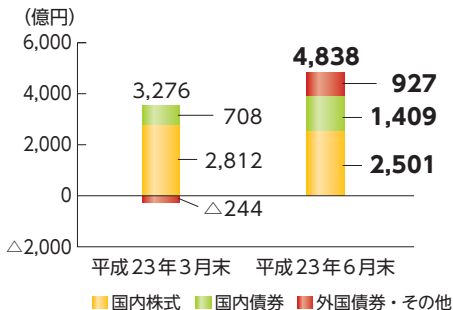


不良債権残高*は、平成23年3月末比367億円増加の1兆4,674億円となりました。**不良債権比率***は、平成23年3月末比0.06ポイント上昇の1.74%となりましたが、引き続き低水準を維持しています。

*三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の2行単体合算

有価証券の含み損益の状況

有価証券の含み損益

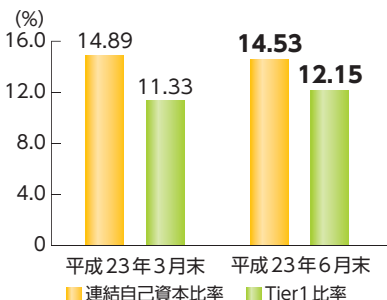


有価証券の含み損益(**有価証券評価差額**)は、平成23年3月末比1,562億円改善し、4,838億円の含み益となりました。国内債券、外国債券の評価益が増加したことが主な要因です。

平成23年度第1四半期の業績

連結自己資本比率・Tier1比率の状況

連結自己資本比率・Tier1比率



連結自己資本比率*は、平成23年3月末比0.36ポイント低下し14.53%、**Tier1比率****は、平成23年3月末比0.81ポイント上昇し12.15%となりました。

* 自己資本比率＝自己資本÷リスク・アセット

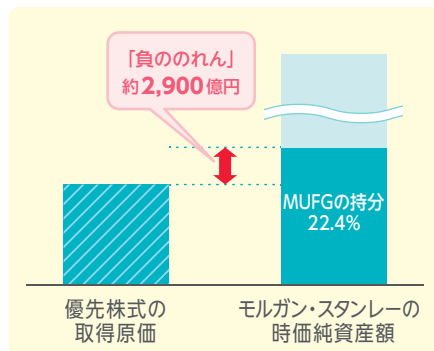
** Tier1比率＝中核的な自己資本（資本金・剰余金など）÷リスク・アセット

平成23年度第1四半期決算に関するQ&A

- Q** 保有していたモルガン・スタンレーの優先株式を普通株式へ転換したことによる損益への影響を説明してください。
- A** MUFGは、平成23年6月、保有していたモルガン・スタンレーの優先株式を普通株式に転換しました。これにより、MUFGはモルガン・スタンレーの議決権の22.4%を保有する筆頭株主となり、同社はMUFGの関連会社（持分法適用関連会社）となりました。これに伴うMUFGの損益への影響の概略は、下記のとおりです。

1. 一時的な損益

普通株式へ転換した時のモルガン・スタンレーの時価純資産額のうち、MUFGの持分に相当する金額が、平成20年に同社へ出資した時の優先株式の取得原価を上回りました。この差額を「負ののれん」と呼びますが、日本の会計基準では、この差額を一括して利益計上することとなっており、当社では当第1四半期で約2,900億円の利益を臨時損益に計上しました。



2. 継続的な損益

普通株式への転換に伴い、今後はモルガン・スタンレーの税引後純利益の22.4%をMUFGの損益として取り込むことになります（普通株式へ転換した優先株式の配当はなくなります）。

(単位：億円)

損益の状況(連結)	平成22年度第1四半期 (平成22年4月～6月)	平成23年度第1四半期 (平成23年4月～6月)
連結業務粗利益(信託勘定償却前)	9,106	8,549
資金利益	5,016	4,709
信託報酬+役務取引等利益	2,482	2,479
特定取引利益+その他業務利益	1,606	1,360
営業費	5,151	5,055
連結業務純益 (一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前)	3,954	3,494
臨時損益(△は費用)	△ 1,360	2,389
うち与信関係費用	△ 1,100	△ 504
うち株式等関係損益	11	△ 224
うち持分法による投資損益	△ 82	3,098
経常利益	2,991	6,012
特別損益(△は損失)	△ 113	102
法人税等合計	955	799
少数株主利益	258	310
連結四半期純利益	1,663	5,005
与信関係費用総額(△は費用) 与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用 (臨時損益内)+貸倒引当金戻入益+偶発損失引当金戻入益(与信関連) +償却債権取立益	△ 541	△ 189

(単位：億円)

資産・負債の状況(連結)	平成23年3月末	平成23年6月末
資産の部	2,062,270	2,061,964
うち貸出金	799,950	794,596
うち有価証券	710,236	691,715
負債の部	1,954,126	1,948,647
うち預金	1,241,443	1,223,985
純資産の部	108,144	113,317

(単位：億円)

連結自己資本比率の状況(第一基準)	平成23年3月末	平成23年6月末
自己資本比率	14.89%	14.53%
Tier1 比率	11.33%	12.15%
自己資本	130,808	125,526
Tier1	99,533	104,932
リスク・アセット	878,049	863,627

クローズアップMUFG

MUFGグループでは、リテール、法人、国際、受託財産の顧客部門がお客さまのニーズにスピーディーかつきめ細かくお応えしています。このコーナーでは、これらの部門を4回に分けてご紹介しています。第2回は企業のお客さま向けのサービスをご提供している法人部門です。

法人部門

大企業から中堅中小企業まで、法人のお客さまの多様なニーズに幅広い金融商品・サービスでお応えしている法人部門。MUFG法人連結事業本部長の長岡孝常務執行役員に聞きました。

法人連結事業
本部長
長岡 孝



Q. 法人部門における、MUFGならではの強みは？

A. MUFGグループでは、大企業から中堅中小企業まで、大変多くの法人のお客さまからお取引をいただいています。バランスのとれた国内拠点網と、邦銀随一の海外ネットワークを営業基盤として、銀行、信託、証券に加え、リースやファクタリングなどの有力なグループ会社が一体となって、お客さまの多様なニーズにお応えする総合金融機能をご提供できることが、法人部門の大きな強みです。

法人取引では、お客さまの専任担当者が、資金調達のご相談や、決済・外為業務などの効率化のご提案を行うほか、グループ会社内の専門部署と連携しながら、資本戦略や海外業務戦略など、お客さまの経営の根幹にかかわる高度な課題の解決を支援するご提案も行っています。お客さまとの関係を深めながら、信頼度・サービス・国際性においてNo. 1の評価をいただけるように取り組んでいます。

Q. 今後の成長戦略について聞かせてください。

A. 法人部門では、お客さまの成長ステージに合わせた最適なサービスとソリューション(課題解決策)のご提供に力を入れています。

大企業のお客さまの多様化している金融ニーズに対しては、プロジェクトファイナンス^{*1}やECAファイナンス^{*2}などに代表される高度な資金調達手法をご提案し、最適な資金調達をアレンジしています。また、戦略的提携先であるモルガン・スタンレーの高度なグローバル金融サービスを活用し、国を越えたM&A案件における提案力の向上を図るなど、これまで日系の金融グループではご提供が難しかった投資銀行業務の強化にも取り組んでいます。さらに、世界規模での資金決済や資金管理を支援するため、トランザクションバンキング業務^{*3}にも注力しています。

中堅中小企業のお客さまには、円滑な資金供給に努めるとともに、経営上の大きなテーマである「事業の円滑な承継」や「成長に向けた会社組織再編」などを支援する資本戦略のご提案を強化しています。資本戦略の実現には、長期的なアドバイスや継続的なコンサルティングが不可欠であり、MUFGの強みである専門性を最大限に発揮しながら、一社一社のお客さまに合わせたオーダーメイドのご提案を行っています。また、国内外のネットワークを活かした大規模な商談会を定期的を開催し、お客さまの新たなビジネスチャンスの創出にも積極的に取り組んでいます。最近では海外進出のニーズが中小企業のお客さまにも広がっており、海外での事業展開を支援するために「グローバル経営相談室」を新設しました。

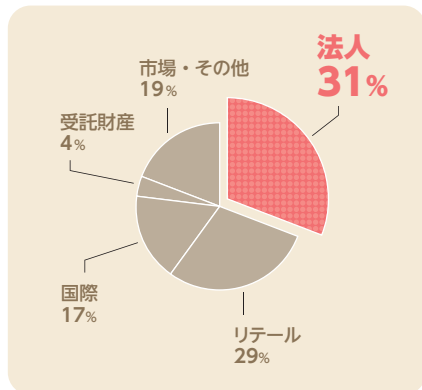
MUFGの強みであるグループ連携をさらに強化することで付加価値の高い金融サービスをご提供することに加え、お客さまの経営課題にスピーディーにお応えするなど、さまざまな面からお客さまの成長に貢献することにより収益の増強に努めてまいります。

*1 石油・ガス等の開発や発電所等の社会基盤建設などの資金調達に利用され、その事業から生み出される資金を返済原資とするファイナンスの総称

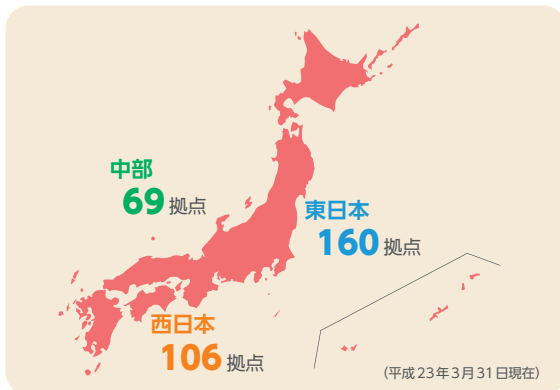
*2 国際協力銀行など公的な輸出信用機関と協働して行うファイナンス

*3 預金・決済・貿易金融など、商流をとらえた業務の総称

■ 部門別営業純益 (平成22年度)



■ 充実したネットワーク



■ 主なグループ会社 (法人部門)

銀行	三菱東京UFJ銀行	ファクタリング	三菱UFJファクター
信託銀行	三菱UFJ信託銀行	コンサルティング	三菱UFJリサーチ&コンサルティング
証券	三菱UFJ モルガン・スタンレー証券	ベンチャー キャピタル	三菱UFJキャピタル
リース	三菱UFJリース、 日本ビジネスリース、東銀リース	電子債権 記録	日本電子債権機構

1 モルガン・スタンレーが関連会社に

MUFGは、平成23年6月、保有していたモルガン・スタンレーの優先株式を普通株式に転換しました。これにより、MUFGはモルガン・スタンレーの議決権の22.4%を保有する筆頭株主となり、同社はMUFGの関連会社（持分法適用関連会社）となりました。また、MUFGから同社に派遣する取締役を1名から2名に増やしました。

平成20年の出資以降、企業金融や投資銀行業務を中心としたグローバルな戦略的提携は着実に進展し、両社の協働は具体的な成果を上げています。例えば、日本においては、平成22年度の国内企業関連のM&A助言ランキングで総合第3位、国内企業による海外企業買収案件に限れば第1位となっています。また、北米では、共同ローン・マーケティング会社を通じた協働も成果が上がりつつあります。なお、米国投資適格企業向けシンジケートローンのランキングで両社の組成額を合算すると、米銀大手行に次ぐ順位となります。

今回の転換を通じ、モルガン・スタンレーとの提携をさらに深め、両社のビジネスの相乗効果を一層拡大していきます。

2 国際連結事業本部を新設

MUFGは、平成23年7月、グループの海外事業運営体制を一段と強化するため、新たに国際連結事業本部を設立しました。

国際的な金融規制が強化されるなか、欧米金融機関による事業再編や、アジアをはじめとする新興国市場の急速な拡大など、海外事業を取り巻く環境は複雑化しています。また、企業活動のグローバル化が進み、お客さまのニーズも一層多様化・高度化しています。

MUFGでは、これまで子会社ごとに海外事業を推進してきましたが、このような環境の変化を踏まえ、今後はグループ一体となって海外事業を推進していきます。グループ総合力を発揮し、お客さまにより付加価値の高い総合的なサービスを提供することで、国際金融界におけるさらなるプレゼンスの向上を図っていきます。

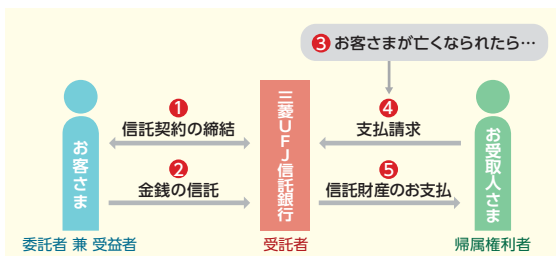


3 「受取安心信託」誕生、三菱UFJ信託銀行で取り扱い開始

平成23年8月、三菱UFJ信託銀行は、相続発生時に残されたご家族の不安を解決する新商品「受取安心信託」の取り扱いを開始しました。

「受取安心信託」は、相続が発生したときにすぐ必要となるご資金、例えばご葬儀の費用や残されたご家族の当面の生活費などを、あらかじめご指定いただいたお受取人さま（3親等以内の親族）に、速やかにお支払いする商品です。通常、預金などは相続手続きが完了するまで引き出すことができませんが、「受取安心信託」では、事前にお預けいただいたご資金を相続特有の複雑なお手続きなく、お受取人さまがすぐに受け取ることができます。

三菱UFJ信託銀行では、相続や資産管理など、信託銀行ならではのノウハウを結集し、今後もお客さまに「安心」をお届けする商品をご提供していきます。



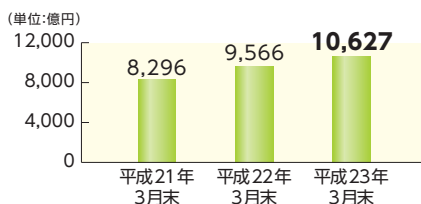
4 確定拠出年金の運用商品販売残高 1 兆円突破

平成23年3月、三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行が提供する確定拠出年金（日本版401(k)）の運用商品販売残高が、本邦金融グループでは初めて1兆円を超えました。

確定拠出年金は、企業もしくは個人が一定の掛け金を積み立て、個人自らが運用を行う年金制度です。平成13年10月に老後の生活の安定や福祉向上を図ることを目的として導入され、平成23年5月末現在、15,000社・400万人に利用されています。今後、老後に向けた資金づくりに対する意識の高まりや国際会計基準の適用に伴う企業の年金制度見直しなどにより、確定拠出年金はさらに拡大すると見込まれています。

MUFGグループでは、これまでに培った資産運用のノウハウを活用し、お客さまのニーズに合った商品の提供に取り組んでいきます。

確定拠出年金 運用商品販売残高



社会とともに

MUFGグループは、「地球環境問題への対応」と「次世代社会の担い手育成」に重点を置いて、社会貢献活動に取り組んでいます。その一例をご紹介します。

❖「ESD 国際交流プログラム」スタート

平成23年7月、三菱東京UFJ銀行は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と協働し、将来にわたって持続可能な社会を構築するために必要な教育「ESD（持続発展教育）」の普及を目的とした「ESD 国際交流プログラム」を開始しました。

このプログラムは、日本のユネスコスクール*加盟校の生徒を環境先進国であるドイツとフランスに派遣し、国際交流を通じてESDへの理解を深めてもらおうというものです。参加した高校生は、ドイツのユネスコスクールやフランスにあるユネスコ本部で、自身の環境問題に対する取り組みについて英語で討論を行ったほか、三菱東京UFJ銀行パリ支店の職場見学などを行いました。参加者にとっては、これまで以上に海外に目を向ける機会となり、「国は違うが、環境問題など同じ課題に取り組んでいることを実感できた」などの感想が寄せられました。

*ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するために平和や国際的な連携を実践する学校です。平成23年3月末現在、180カ国約9,000校が加盟しており、日本では279校が参加しています。



ドイツにて

❖「守ろう地球のたからもの」子ども自然体験教室を開催

MUFGグループは、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と協働し、自然環境や文化財を人類共通の「たからもの」として未来へ引き継いでいくための環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」を推進しています。

平成23年8月、この一環として開催している児童絵画コンクールで最優秀賞を受賞した児童を青森県に招待し、「子ども自然体験教室」を開催しました。青森県の大自然に触れながら、世界自然遺産の白神山地周辺での植樹や海岸の清掃活動などを行いました。参加した子どもたちからは、「自然を守るためにごみの分別など身近なことから始めようと思った」などの感想が寄せられました。



児童絵画コンクール
「みどりの絵コンクール」表彰式



子ども自然体験教室で植樹

■ 就業体験プログラム「ジョブシャドウ」を実施

平成23年7月、MUFGグループは、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本と協働し、今年で5回目となる高校生就業体験プログラム「ジョブシャドウ」を実施しました。「ジョブシャドウ」とは、子どもたちが仕事をしている人と「影」のように一緒に行動し、仕事の厳しさや楽しさを体験するもので、今後の進路や職業選択に役立てることを目的とした教育プログラムです。



当日は、東京都教育委員会の公募で選ばれた都立高校生102名が、MUFGグループ各社の職場に分かれ、社員と一緒に会議に出席するなど、仕事の現場を体験しました。



平成23年の株主特典ピーターラビット™オリジナルグッズ 受付終了のお知らせ

平成23年の株主特典ピーターラビット™オリジナルグッズの受付は、終了しました。多くの株主さまからご応募いただき、誠にありがとうございました。

なお、株主さまのご不在・住所不明などにより当社に返送されたグッズにつきましては、平成23年9月30日まで保管いたしますのでご了承のほどお願い申し上げます。

「ご優待クーポン券」は平成23年12月30日までご利用いただけます。詳細は平成22年12月にお送りしました「ご優待サービスご利用ガイド2011」をご確認ください。

平成23年優待制度の
対象株主さま

平成22年9月30日時点の当社株主名簿に、100株以上保有
と記載された株主さま

グループメッセージについて

MUFGグループは「Quality for You」を
グループメッセージとして、
お客さまとのさまざまな
コミュニケーションの場で展開していきます。

Quality for You

このメッセージには、
「『質』の高いサービスのご提供を通じて、
お客さま一人ひとりの生活や一社一社の事業の
『質』の向上をお手伝いしたい。
そして、こうした活動を通じて
地域・社会の発展に貢献していきたい」
という私たちの想いを込めています。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1

電話03(3240)8111(代表)

URL:<http://www.mufg.jp/>

株式に関するお手続きについてご不明な点などがございましたら、
以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター

電話:0120-232-711(通話料無料)

(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)